

に苦しむが仕方ネエか。

二月五日

七時起床。森の学校の設計をまとめる時期になってきた。厚生館の方も動くようで楽しみになった。今のところ健康でよく体も動けるのでその点は身近な人に感謝したい。十四時大学。学部大学院のレポートを九〇センチメートル分の厚さを読む。それでも五、六ヶ面白いのを見つけた。学生ガキの書くものでも面白いモノは時にあるのだ。二〇時まで、ぶっ続けに読んで採点する。頭のシソまで疲れ果てる。二〇時半新大久保駅前のソバ屋で一杯飲んで世田谷村に戻る。二三時前松本向井が残っていて談笑。

二月六日

早朝三階の私の場所から東の空を眺めている。力不足で出来ずにいる諸々の事を憮然として朝の光の中で考えている。何でこんなに出来ないのかなあ。

八時半地下。光嶋が今日聖徳寺現場の梅沢さん配筋検査に立会う準備をしていた。少しは役に立ってくれよ。GAHOUSESの展覧会に出すプロジェクトを検討する。代々木上原の物件をやることに決めた。

十二時大学。早稲田の演劇学生が相談に来室。聞けば劇団を主宰していて十三、四名なのだと言う。早稲田界限に小劇場を作りたいので場所その他相談に乗って欲しいと言う。金はあるのかと問えば案の定ありませんと答える。かじれる程の親のスネはあるかと尋ねれば、これも又ないと言う。二、三年たったらNPO立ち上げて地域文化の興隆を担いたいと白々しい事しゃべっているので、これはただの頭脳のサハラ砂漠状学生だと知れた。北海道

二月二日

午後山口勝弘さんのところへ行くつもりでいたら、まだ先生の芸術的実験が終了していないからと延期になった。午後ポツカリ時間が開いたので、大学関係の書類が作成できた。こういう空白は助かる。来週NHK取材で岡山閑谷学校へ行くのでその勉強を少し。十八時半閑谷学校の勉強は一区切つく。マ、勉強は嫌じゃないね俺は。

二月三日

朝地下打合わせ。病欠が多い。十三時大学学科会議。その後西谷主任と打ち合わせ。二一時過世田谷村に帰る。

二月四日

朝八時三〇分地下に降りる。底冷えして気持ちがい。一人でポロっとしているのも良いモノだ。何考えるでもなく。こういう日常の退屈さに耐える、あるいは楽しむ力が私には弱い。そう思っただけ始めた筈の屋上菜園も我ながらあきてきてしまった。十時大隈講堂卒業設計公開講習会。二川幸夫氏等来ていただくも作品が余りにも低調で盛り上がり欠けた。十六時半総長室。四五分白井総長と共に官邸へ。十九時前弁慶橋の料亭で会食。西谷主任も交じわる。二一時終了。二時半世田谷村に戻る。十二時前上る。何でこんなに早稲田の為に動かねばならんのか、自分でも理解

富良野の倉本さんの演劇塾の事など持ち出すのでアアこいつは北の国からとかのTV視過ぎの人間だとも知れた。でも流石に可愛そうになって劇団員五人程の家賃を合わせて幾らになるのか計算してみる、十五、六万円か。それならその家賃で床か空地を借りて共同生活して、その共同生活の場を小劇場にしたら良いと教えた。ああ、それならできそうだと帰った。研究室のサハラ砂漠達が早稲田通りの空室を調査しているのでその情報を十日程経つたら知らせてやろう。聞けば早稲田には今七、八百の演劇集団があると。それで成功するのは三年に一つ位の確率だそう。しかもその一つも大体外に出て一年でつぶれてしまつらしい。建築家として成功する確率より低いのだな。十三時教室会議。十五年筆に関してのインタビュー。十六時設計製図担当のミーティング。十七時過日建設設計橋本専務来室。会食。二〇時半世田谷村へ戻る。二十一時半ブノンペンJ A I C Aの中根氏フランス人女性を連れて来宅。ブーケット島に豪壮な屋敷と広大な土地を持つ女性らしい。地下で又もやゴビ砂漠状態の人間達が問題を起してあきれ返る。マイナスエネルギーが地下にはびこっているのだがその震源地は何処か。

二月七日

昨夜は堀川を徹夜させたので、私も早朝に起きてその仕事を見る。十時前ののでみで岡山へ。只今十二時二五分大阪である。ウトウトと眠ったり、メモしたりで久し振りに良い時間である。やはり一人が一番よいか。十三時過岡山駅。駅前ホテルで小田のおじさんとあって佐伯町へ。おじさん七三才になったそう。しかし足どりもしっかりして元気だ。車の中で閑谷学校生活について話しを聞く。朱子学のメッカであったから、おじさんが学生当

時は韓国からの学生がクラスで三名もいたそう。又、あの有名な石垣に登ったら退学であった事、今は国宝の講堂での聖教の時間の事など興味のある話を沢山聞いた。途中母方の墓の墓参り。仏壇にお線香をあげていたらかまのいの上の祖父祖母亡くなったおじさん達の写真その他が眼に入り時間の持続性を感じた。十六時五八分和気発三原行の電車で岡山へ。岡山駅から数ブロック歩いてエクセル岡山HOTEL十八時チェックイン。いかにもな地方都市のビジネスHOTELで気持も冷える。岡山市の目抜き通りを歩いてきたのだが人通りも少く冷えていた。しかし、こんなもんなのが日本の現実なんだろう。都市は廃墟化しつつある。エレベーターでNHKの小林さんに再会した。ホツとする。やっぱり知らない都市で独人というのは気持が固まっていたんだ。岡山城が真近にライトアップされて浮き上がっている。二十二時NHKの人たちと会食を終えホテルに戻る。楽しいメシであった人それぞれに苦勞を重ねてきた人には味があるな。内閣府よりホテルに連絡が入っていた。

何処かで私のスタッフの水準を守らなければならないのは理の当然である。覚悟して私が全部考え全部動くというセオリーを貫くのか、任せられるところはある水準を設定して任せるのか、決断のしどころだろうな。ともかくスタッフの問題が私のアキレス腱の一つである事なのは確かだ。

二月八日

四時過起床。閑谷学校の学習。五時半修了。少し眠って七時朝食。八時出発。高曇りで薄陽は指している。九時閑谷学校着。撮影開始。五つ位のシーンをとる。沢山の観光客がいて、照れるかなと思つたが、我ながら平然とやれた。感受性が鈍くなっている

んだキット。十二時前修了。黄葉亭を見て昼食。備前市長と会う。十五時前岡山のホテルに戻り、少し眠る。色の無い閑谷学校も又良かったな。人に感動してもらえる建築を作らなければいけない。池田光政、津田秀忠のそれぞれの理念、努力は閑谷学校を介して現在の私達の心を打つものになっている。今更言うまでも無いが建築は努力を傾注するに足る仕事だ。その事を確認できただけで岡山に来た甲斐がある。近代建築様式にこだわること無い。建築というスタイルにさえこだわらなくてもいい。全てのこだわりを捨てて自由に自分を表現してゆきたいものだね。もうそろそろそれは出来るだろう。

十九時小林さんと食事に出る。番組作りの事等色々とうかがう。

二月九日

四時過眼がさめてしまう。困ったものだ。長い眠りがとれないな旅に出ると。今日は帰りに名古屋に寄って地鎮祭に立会う。今、六つの現場が動いているが何とか乗り切りたい。

閑谷学校メモ

閑谷学校の価値は次の三点に集約される。

一・創始者池田光政の遺髪を収めた墓所が学校近くにあり、光政の理念でもある儒教を表象する聖廟すなわち孔子廟が学校内にある事。又、池田公を奉る閑谷神社がそれと隣合っている事。学校の理念と伝統（歴史）が眼に見えるモノとして校内に存在する事。
二・光政が選んだ場所と学校の諸々の建築が良く調和している事。自然と人口が節度を持って併存している事。これは学校を囲む石垣の高さに負うところが多い。火除山のランドスケープの妙も見のがす事が出来ない。様々な樹木の配置の妙も見逃せない。

三・津田秀忠の才がそれを成し遂げたのだろうが江戸期の建築にありがちな工芸趣味による過剰なモノが良くしりぞけられ、質実剛健なたずまいになっている事。特に講堂に良くそれが表れている。津田秀忠の土木事業家としての実際家、現実主義者の匂いがそれをなさしめたのだろう。建築と土木とがそれによって見事に融合している。

今の日本の様々な建設工事にはそれが見受けられぬ事が、閑谷学校の総合性から、逆に良く見えてくる。

以上を要約すると閑谷学校が場所の特性を、時間（歴史）の中に融合させた名品である事が良く理解できる。

ホテル一階で朝食をとり、歩いて岡山駅へ。八時前プラットフォームで汽車を待っている。そう言えば今日は日曜日だな。只今九時半のぞみ6号は閑ヶ原を過ぎた。名古屋で名鉄に乗換え十一時前本星崎。十一時過地鎮祭。浜島親子と神主とたった五人の式だった。残した母屋がポツンと町並みに孤立していた。去年の夏だったか、この家をスケッチした事があって、その絵の状態は今も無い。又、風が吹いている。敦煌の空港前のガランとした広場にも風が吹いていたよ。十二時浜島さんの仮住いでお昼をいただく。医院部分の平面を少し変更する。やはり少しでも手を入れないと平凡なモノになってしまう。油断大敵。十四時過のひかりで東京へ。十七時過世田谷村に戻る。